

イチョウ（ギンナン）の密植条件における樹冠構造

山下俊二・青木俊和

Canopy Structure of Ginkgo (*Ginkgo biloba* L.) under an Overcrowded Density

Shunji YAMASHITA and Toshikazu AOKI

要 約

イチョウ（ギンナン）の密植条件下での樹冠構造や収量性，光環境などを調査し，密植化による弊害を検討した．

- 1．定植時の栽植密度のまま樹冠を無制限に拡大させると密植化した．樹冠占有面積は栽植面積を上回り，隣どうしの樹の枝も重なり合うほどの過密状態であった．
- 2．樹冠が過密状態になると，樹冠下層では葉面積密度が低い，葉の色が薄いなど，葉の充実が樹冠上層や中層より劣っていた．また，樹冠下層では胚珠の発生が少なく，殻果収量も少なかった．冠下層の相対照度が10%未満と低かったことから，これらの原因は日照低下によるものと考えられた．
- 3．樹冠下層は主として非生産組織である木材の量が増加する枝梢構造で，定植時の栽植密度のままでは一定収量を維持することは困難であり，密植化するまでに縮間伐を実施する必要があると考えられた．また，間引き剪定によって樹冠下層の受光能率が高まる樹形にすることにより，葉量や胚珠数，収量の増加が期待できる．さらに，樹冠上層にある殻果の収穫を容易にするためには，樹高を制限する必要もある．

キーワード：イチョウ（ギンナン），密植化，樹冠構造，相対照度